平成22年度　収集情報

項目	内容
テーマ	食品営業施設における手指用乾燥機（ハンドドライヤー）の実態調査
概要	調理従事者の手洗いの重要性が増している中、ペーパータオルに替えて、ハンドドライヤーを設置する施設が増加しており、衛生管理の実態等を把握するため、平成20年度より設置や衛生管理状況等についての実態調査、拭き取り検査及び手に付着した水滴の飛散状況等について検証した。 ハンドドライヤーを設置している32施設を対象に清掃方法等について調査した結果、清掃頻度及び清掃方法等について施設間に差が見られ、マニュアル等の整備がない施設が78%だった。 また、８施設44台について、手挿入部内の拭き取り検査を実施したところ、３施設11台から大腸菌群、１施設３台から糞便系大腸菌群、３施設11台から黄色ブドウ球菌が検出された。 さらに、８施設16台について、水滴の飛散状況を蛍光塗料で検証したところ、全施設の機種から水滴の飛散が確認された。 これより、手挿入部分に残った水滴がハンドドライヤーを介して手指や施設を汚染する可能性が示唆された。
対象業種	食品事業者
今後の取組みの方向性	ハンドドライヤーを設置している食品事業者に対して、ハンドドライヤーの特性について注意喚起するとともに、適正な使用方法（正しい手洗いの実施等）や清掃等について普及啓発を図る。
添付資料	・食品営業施設における手指用乾燥機（ハンドドライヤー）の実態調査 （平成22年度食品衛生監視員協議会東京大会抄録） ・ジェットタオル取扱説明書（三菱電機株式会社製JT-WB220DS） ・「ハンドドライヤーを正しく使用していますか？」リーフレット（府中保健所作成）

食品営業施設における高速風式手指用乾燥機(ハンドドライヤー)の実態調査

平成22年度食品衛生監視員協議会東京大会抄録

(東京都多摩府中保健所計画事業)

1　はじめに

近年、食品関係施設では、コストや環境への配慮等の理由から、ペーパータオルや共用タオルに替えて高速風による手指用乾燥機（以後、「ハンドドライヤー」という。）を導入する食品事業者が多く見られる。一般に、ハンドドライヤーは風圧で手指に残った水分を飛散・除去するものであるが、使用方法や衛生管理の状況によっては、ハンドドライヤーが新たな汚染源となり、機器周辺への汚染水滴の飛散や手指への二次汚染が懸念される。

ついては、ハンドドライヤーの適正な使用方法等について普及啓発を図っていくため、その衛生管理状況や機器の特性等について調査したところ、若干の知見を得たので報告する。

2　調査内容

(1) 実施期間：平成20年9月から平成22年3月まで

(2) 対象施設：従業員用にハンドドライヤーを設置する食品関係事業者　32施設　計273台

(内訳：飲食店12、製造業6、コンビニ5、集団給食4、スーパー4、デパート1)

3　調査方法

(1)　実態調査

全施設を対象に、機種や清掃方法等について、調査票による聞き取り調査を実施した。

(2)　汚染実態調査

業態、施設規模、機種等を考慮し選択した8施設44台（うち4台は20、21年度で2回実施）を対象に汚染実態を把握するため細菌検査を実施した。

ア　手挿入部の拭き取り検査

手挿入部内の各面を拭き取り法により、指標菌に大腸菌群、黄色ブドウ球菌及び糞便系大腸菌群（ノロウイルス指標）を選択して検査した。なお、検査時に手挿入部内の汚れと濡れ具合を目視で確認し、4段階評価した。

イ　吹き出しエアーの検査

エアー吹き出し口にデソキシコレート培地を挿入し、5秒間作動させ大腸菌群を検査した。

(3)　ハンドドライヤーによる水滴の飛散及び跳ね返りの検証

汚染実態調査を実施した施設の16台を対象に、手に付着した水滴の飛散及び手挿入部内の水滴の跳ね返り試験を実施した。ブラックライトで視認可能な範囲で希釈した蛍光塗料を手袋及び手挿入部に霧吹き器で吹き付けて、約5秒間作動後に試験者の白衣、帽子、マスク、手袋への飛散状況を確認した。

(4)　ハンドドライヤーメーカーとの意見交換

ハンドドライヤーの適正な使用方法等について、より効果的に普及啓発を図っていくため、製品の構造や使用上の注意点及び水滴飛散等に関する知見とそのユーザー対応などについて、主要メーカー3社の担当者と意見交換を実施した。

3　結果及び考察

(1)　実態調査結果

ア　メーカーは施設別に見るとA社14施設（44%）、B社10施設（31%）、C社3施設（9%）と、この3社が多数を占めていた。

イ　設置場所は、「トイレ」21 施設（66%）、「トイレと作業場」の併設 10 施設（31%）と、トイレに優先的に設置する傾向がみられた。設置理由は、「清潔性」が 18 施設（41%）と最も多く、次いで低コスト、環境面が続いた（図 1）。

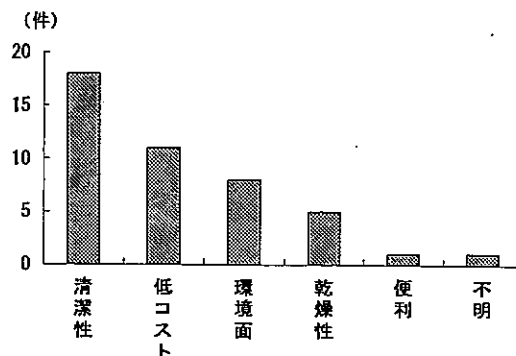
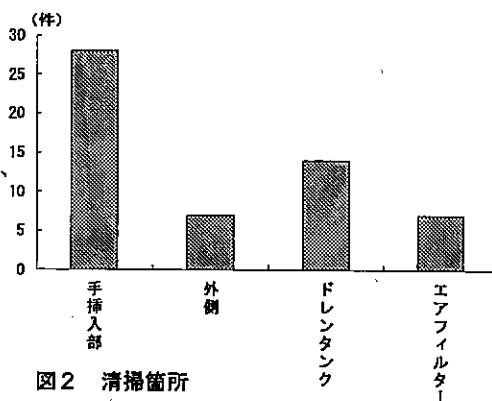
図1　設置理由

ウ　清掃箇所は、各社取扱説明書に記載されている全項目を実施していたのは 4 施設(13%)だった。「手挿入部」は 28 施設(88%)が清掃していたが、「ドレンタンク」や「エアフィルター」の実施率は低かった（図 2）。清掃頻度は、24 施設（75%）が 1 日 1 回以上実施していたが、「汚れたら・不定」の施設も 4 施設あった（図 3）。また、清掃等の方法は「乾拭き」10 施設（31%）、「中性洗剤」7 施設（22%）、「消毒用アルコール」5 施設（16%）、これらを併用する施設が 6 施設（19%）と、施設ごとに差が見られた（表 1）。

なお、清掃やメンテナンスに関するマニュアル類が無い施設が 25 施設（78%）と多かった。

図2　清掃箇所

表1　清掃・消毒方法

清掃	消毒	施設数
から拭き	無	10
	次亜塩素酸Na	1
中性洗剤	無	7
	消毒アルコール	5
消毒アルコール		5
その他・不明		4

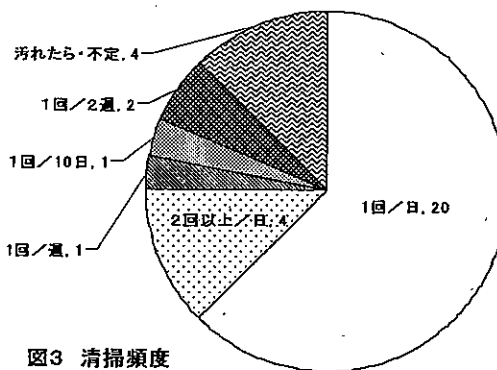



図3　清掃頻度

エ　ハンドドライヤーの清掃等について施設間に差が見られ、マニュアル等も整備されていない施設が多く、食品事業者の衛生管理に関する認識は十分でないと考えられた。

(2)　汚染実態調査（表 2）

ア　手挿入部内の拭き取り検査

8 施設 44 台（延べ 48 台）の拭き取り検査の結果、3 施設 11 台（23%）から大腸菌群、1 施設 3 台（6%）から糞便系大腸菌群、3 施設 11 台(23%)から黄色ブドウ球菌を検出した。

イ　吹き出し口のエアーからはいずれも大腸菌群を検出しなかったが、吹き出し口のエアーに関しては大腸菌等の検出報告[1)2)]がある。

ウ　細菌検査と同時に、手挿入部の濡れ具合及び汚れ具合について目視検査を行ったが、その相関性はみられなかった。このことから、清掃等については、目視だけの判断に頼ることなく、定期的な清掃が必要であると考える。

エ　大腸菌群等の検出はいずれも大規模施設であったことから、従業員数が多く 1 台あたりの使用頻度が高い施設では、より清掃頻度を増やす必要があると考えられた。また、アルコール等による消毒も検討が必要と考えられるが、ハンドドライヤーはその材質等からアルコールや次亜塩素酸 Na を使用できない機種が多いため、今後、メーカーにおける改良が望まれる。

表2 拭き取り等検査結果

No.	業態	メーカー	機種	検査台数	検出台数			
					拭き取り検査			エアー
					大腸菌群	糞便系大腸菌群	黄色ブドウ球菌	大腸菌群
1	スーパー	C社	片面タイプ	8	2	0	5	0
			両面タイプ	4	0	0	2	0
2	デパート	A社	両面タイプ	5	3	2	1	0
		C社		6	5	1	2	0
		D社		3	0	0	0	0
3	大規模製造業	A社	両面タイプ	11	0	0	1	0
4	大規模製造業	A社	両面タイプ	4	1	0	0	0
5	スーパー	A社	両面タイプ	2	0	0	0	0
6	集団給食	A社	片面タイプ	1	0	0	0	0
			両面タイプ	1	0	0	0	0
7	スーパー	B社	片面タイプ	2	0	0	0	0
8	コンビニ	A社	片面タイプ	1	0	0	0	0
			合計	48	11	3	11	0

(3) ハンドドライヤーによる水滴の飛散及び跳ね返りの検証（表3）

ア 8施設16台について、手に付着した水滴の飛散状況を蛍光塗料にて検証したところ、その飛散量や飛散範囲に差は見られたが、全施設、全メーカーの機種から水滴の飛散が確認された。なお、両面タイプは手の挿入位置から上方向に、片面タイプは下方向に多く飛散する傾向が見られた。

イ 使用時における手指からの水滴飛散については、他の報告例[3)4)]もあるが、ハンドドライヤーを設置する場合は、作業場内では食材や食器等に影響を及ぼさない場所に設置すること、また、手洗い後は、手洗器内で水滴を切った後にハンドドライヤーを使用し、水滴飛散をできるだけ抑えることが重要である。

ウ 手挿入部内の水滴については微量ではあるが、10台（63%）で手指や袖への跳ね返りが確認された。このため、使用時に手挿入部内の汚染が手指を汚染する可能性がある。正しい手洗いを実践して手挿入部内を汚染しないこと、また、手挿入部内については定期的に清掃を実施することが重要である。

エ 一部施設で糞便系大腸菌群が検出されたことから、水滴の飛散、跳ね返りによる糞便系汚染の拡大が懸念される。このため、正しい手洗いとトイレ使用時の更衣の重要性が再認識された。

表3 水滴飛散及び跳ね返り検証結果

No.	業態	メーカー	機種	検査場所	水滴飛散	飛散範囲	水滴跳返り	跳返範囲
1	スーパー	C社	片面タイプ	B1男子トイレ	＋	マスク	−	−
			両面タイプ	B1女子トイレ	＋	マスク、襟、袖	−	−
2	デパート	D社	両面タイプ	9F男子トイレ	＋＋	マスク、襟、胸部	＋	手指
		A社		9F女子トイレ	＋	マスク、襟	＋	手指
		C社		8F男子トイレ	＋＋	マスク、襟、胸部	＋	手指、袖
3	大規模製造業	A社	両面タイプ	4F男子トイレ	＋	マスク、襟、袖	＋	手指
				食堂女子トイレ	＋	マスク、襟、袖	−	−
				男子トイレ	＋	マスク、襟、袖	＋	手指
4	大規模製造業	A社	両面タイプ	女子トイレ	＋	マスク、袖	＋	手指、袖
				作業場入口	＋	マスク、袖	＋	袖
				作業場入口	＋	袖	−	−
5	スーパー	A社	両面タイプ	男子トイレ	＋	マスク、袖	＋	手指
6	集団給食	A社	片面タイプ	男女トイレ	＋	マスク、襟、大腿部	＋	手指
			両面タイプ	作業場入口	＋	襟、下腹部	−	−
7	スーパー	B社	片面タイプ	男子トイレ	＋＋	マスク、襟、袖、大腿部	＋	手指、袖
8	コンビニ	A社	片面タイプ	男女トイレ	＋	袖、襟	−	−

(4) ハンドドライヤーメーカーとの意見交換、普及啓発

ハンドドライヤーの適正な使用方法や衛生管理について、より効果的に普及啓発を図っていくため、主要メーカー3社の担当者と、ハンドドライヤーの構造や特徴、消毒の対応等について意見交換を行った。その結果をふまえ、事業者向けリーフレット「ハンドドライヤーを正しく使用していますか？」（図4）を作成し、普及啓発について、メーカーにも協力を要請した。

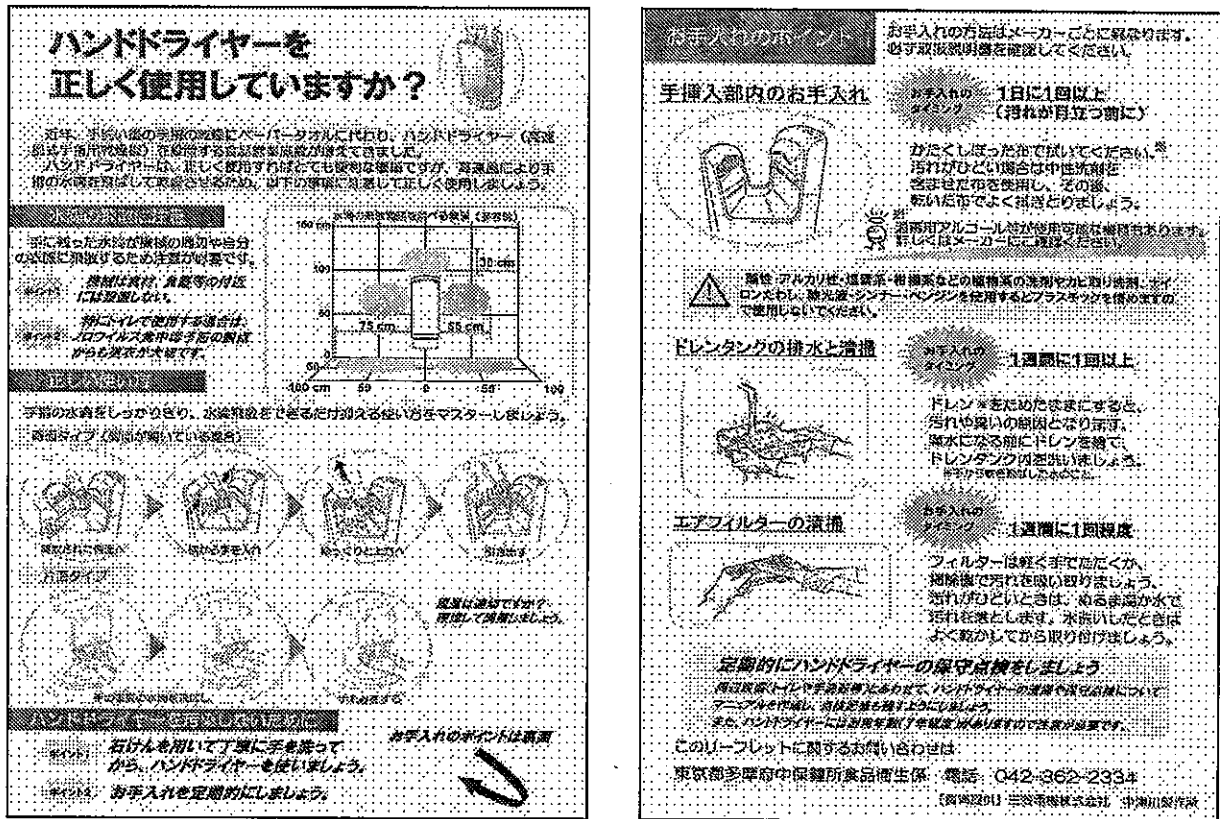



図4　リーフレット

4　まとめ

(1)　ハンドドライヤーの使用時に水滴が使用者本人や周囲に飛散することが確認されたことから、①設置場所の精査、②水滴飛散を抑える使用方法の徹底、③トイレ使用時の更衣の重要性等について、食品事業者に対し指導の徹底を図ることが必要であると考えられた。

(2)　ハンドドライヤーの使用時に、手指等が二次汚染を受ける可能性があることから、①正しい手洗いを実践し手挿入部内を汚染しないこと、②手挿入部内の定期的な清掃等について、同様に指導を徹底することが必要であると考えられた。

(3)　1台あたりの使用頻度が高い大規模な施設では、手挿入部内の汚染の機会も高いため、清掃頻度をより増やす必要がある。また、食中毒予防の観点から、ハンドドライヤーの材質がアルコールや次亜塩素酸Naによる消毒に耐え得るものとなるよう、メーカーの改良が望まれる。

ハンドドライヤーによる周辺への汚染水滴の飛散や手指への二次汚染を防止し、食中毒を予防するためには、ハンドドライヤーの適正使用が必要不可欠である。ついては、本リーフレットを活用し、ハンドドライヤーを設置している食品事業者に対して、ハンドドライヤーの特性、適正な使用方法や清掃等について普及啓発を進めていく。

【参考文献】

1）西園寺克ら：ハンドドライヤーのジェット温風による細菌飛沫について　防菌防黴学会 2009

2）西園寺克ら：ジェットタオルの菌汚染状況と飛沫菌による手の汚染　臨床検査医学会 2009

3）古橋拓也ら：ハンドドライヤー使用時における飛散菌とエアロゾルの挙動　空気調和・衛生工学会大会学術講演論文 2007

4）竹内史朗ら：ハンドドライヤー使用時における水滴の挙動　空気調和・衛生工学会大会学術講演論文 2007

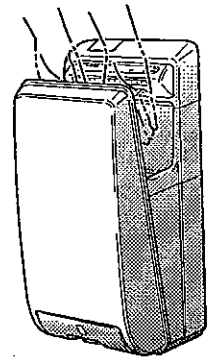
MITSUBISHI

0802874HD1302

ハンドドライヤー ジェットタオル®

形名

JT-WB220DS（単相200V仕様）

SIAAマークは、JIS Z 2801に適合し、抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された製品に表示されています。

取扱説明書 お客さま用

■ご使用の前に正しく安全にお使いいただくため、この取扱説明書を必ずお読みください。そのあと大切に保管し、必要なときお読みください。
■保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、大切に保管してください。
■添付別紙の「三菱電機　修理窓口・ご相談窓口のご案内」は大切に保管してください。

お客さま自身では取り付けないでください。（安全や機能の確保ができません）

安全のために必ず守ること

●誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりです。

禁　止	水ぬれ禁止	分解禁止
風呂・シャワー室での使用禁止	ぬれ手禁止	指示に従い必ず行う

⚠警告

●前パネルを開けない
（感電のおそれがあります）

●塩害地域および腐食性ガス・中性ガス・還元性ガスのあるところでは使用しないでください。
（機器の寿命が短くなったり、感電・故障の原因となります）

●浴室など湿気の多い場所や結露する場所では使用しない
（感電、故障の原因になります）

●水をかけない
（感電のおそれがあります）

●改造や必要以上の分解はしない
（火災・感電・けがの原因になります）

●単相200Vを使用する
（間違った電源を使用すると火災、感電、故障の原因になります）

●専用配線工事を行う
（他の器具と併用すると配線部が異常発熱して発火することがあります）

●お手入れの際は、必ず電源スイッチを切る
（感電のおそれがあります）

⚠注意

●ぶらさがらない
（製品が落下するおそれがあります）

●手の乾燥以外に使用しない
（不適切な用途で使われますと、事故の原因になることがあります）

●動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため電源スイッチと漏電しゃ断器を切って、お買上げの販売店に必ず点検・修理をご依頼ください
（感電や漏電、ショートなどによる火災のおそれがあります）

●お手入れの際は手袋を着用する
（着用しないとけがをするおそれがあります）

●ドレンタンク・エアフィルターを必ず本体に取り付けて使用する
（本体に水が入ると、漏電・感電のおそれがあります）

お願い

●次のような場所では使用しないでください。
・0℃未満・40℃以上になる場所
・日光・強い光があたる場所
（センサーが誤動作するおそれがあります）
・食材・食器等の近く
（水滴がかかるおそれがあります）

●手に薬品などがついたまま使用しないでください。
（機器の寿命が短くなります）
●乗りものに取り付けないでください。
●水を製品内部に吸い込んだ場合には、機器の故障や吸音材が吸湿し菌が繁殖する可能性がありますので、エアフィルター及び吸気口付近に水を付着させないように十分注意をお願いします。

特　長

- 「ノータッチ乾燥」だから**衛生的**。さらに**アルコール清掃**もできます（手挿入部のみ）。
- 濡れた手をジェット風で**スピード乾燥**。電気代だけだから**経済的**。
- **いたずら防止タイマー付き**なので安心して使えます。
- ゴミ処理、タオル交換の手間がかからない**簡単メンテナンス**。
- **抗菌加工タイプ**です。

いたずら防止のために、約30秒間連続して使用すると自動的に運転を停止します（いたずら防止タイマー）。
続けて使用する場合は、一旦手を引いて再度手を入れてください。

各部のなまえと使いかた

SIAAマークは、JIS Z 2801に適合し、抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開された製品に表示されています。

電源部

※図の網かけ部分は抗菌加工しています。
- 抗菌性能はユニチカガーメンテック(株)日本紡績検査協会にて確認

◆一番最初に…

電源スイッチを「入」にする
- 電源ランプが点灯します（表示部）。
- 照明ランプが点灯します。
- 風量スイッチで風量を調節してください。（強と弱の２段切換）
- 通常はふたを閉じます。

■長時間使用しない場合
電源スイッチを「切」にしてください。
「入」では約２Wの電力を消費します。

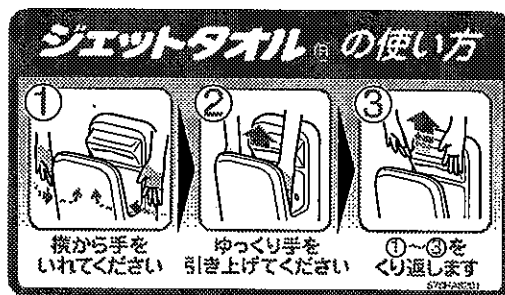
使いかた

1
両手を開いて**奥まで**入れる

2
ゆっくり引き、
風で水を吹き飛ばす

3
指先まで引き抜く

●ワンポイント

ジェットタオルは、本体の両側が開放されているので、横からも自然に手を入れることができます。横から手を入れ、上から引き出す動作を2～3回繰り返すと水滴が逆戻りすることなく乾かすことができます。
（側面に壁がある場合は上から入れてください。）

■点検ランプ　故障や異常が起こると、表示部右端にある「点検ランプ」が点灯または点滅します。
電源スイッチを一旦「切」にして、表示部のランプが全て消灯したのを確認した後（約60秒）に再度「入」にしてください。
それでも同じ点滅を続ける場合は、電源スイッチおよび漏電しゃ断器を「切」にして、お買上げの販売店へご連絡ください。

お手入れ

本体外装のお手入れ
汚れが目立つ前に

●かたくしぼった布でふく。
汚れがひどい場合は中性洗剤を浸した布を使用し、その後、乾いた布でよくふきとる。

●センサー部分のほこりを取り除く。
（誤動作防止のため）

「お願い」	●中性洗剤を使用してください。 ●シンナー・ベンジンなどや酸性またはアルカリ性のトイレ用洗剤、ナイロンたわしなどは使用しないでください。（プラスチックおよび塗装面を傷めます） ●手挿入部のみアルコール清掃ができます。（手挿入部以外は使用しないでください） ＊アルコールとは消毒用エタノール（濃度83％以下）を指します。 ●化学ぞうきんは、その注意書きに従ってください。 ●消毒液は製品を傷めます。

⚠警告
- ●お手入れの際は、必ず電源スイッチを切る
- ●本体に水をかけない

⚠注意
- ●お手入れの際は手袋を着用する

■抗菌加工部（左ページ図の網かけ部）表面に、菌が付着したときに抗菌効果を発揮します。

■表面に汚れがあると抗菌効果がでません。

ドレンタンクの排水と清掃
満水になる前に（1週間に1回以上）

●手から吹き飛ばした水のことをドレンといいます。
●ドレンが満水ラインを越えないように捨ててください。
●ドレンをためたままにしておくと、臭いの原因になります。

1 ドレンタンクを水平に引き出す
- ●水がこぼれないように水平に運ぶ。

※お掃除忘れ防止のため、ドレンタンクを引き出すとエアフィルターも少し手前に引き出されますが故障ではありません。

2 1．ふたを開けてドレンを捨てる
- ●まずふたの上に書かれてある矢印部分を指で起こし、次にふた全体をあける。

2．ドレンタンク内を洗う

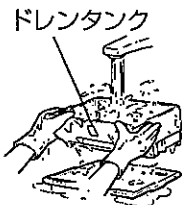
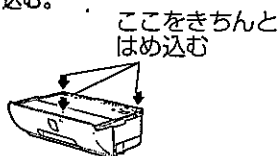
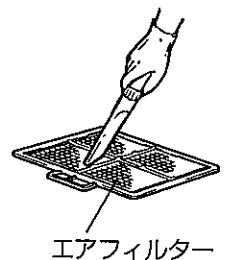
3．ドレンタンクにふたをして元通り本体に取り付ける
- ●本体奥まで確実に取り付ける。
- ●図の矢印部分３か所を確実にはめ込む。

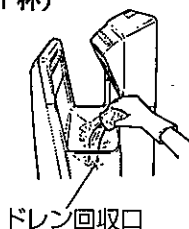
ふた
ドレンタンク
ここをきちんとはめ込む

3 ドレン回収口に約200cc（コップ1杯）の水を入れる
（ドレン回収口のつまりを防止する）
- ●ドレンタンクが本体に付いていることを確認してから行う。
- ●何度か作業を繰り返した後、最後に必ずドレンタンクに溜った水を捨ててください。

エアフィルターの清掃
1週間に1回以上

1 エアフィルターを取りはずす
- ●エアフィルターの取っ手を引く。

※お掃除忘れ防止のため、ドレンタンクを引き出すとエアフィルターも少し手前に引き出されますが故障ではありません。

2 1．エアフィルターの汚れを取る
- ●軽く手でたたくか、掃除機でほこりを吸取る。
- ●汚れのひどい場合は、ぬるま湯か水で汚れを落とす。

2．本体に取り付ける（元に戻す）
- ●奥の突き当たりまで押し込む。（エアフィルターがはずれていると、ゴミ・ホコリが本体内に侵入し、寿命が短くなることがあります）

「お願い」	●水洗いをした場合は、よく乾かして十分に水気を取ってください。 ●火やドライヤー等、熱のあるもので乾かすことは絶対に行わないでください。

■「故障かな?」と思ったら

次のような場合は下記の点検・処置を行ってください。

こんなとき	点検	処置
手を入れても風が出ない	表示部のランプは点灯していますか? 停電ではありませんか?	●漏電しゃ断器を「入」にします。 ●電源スイッチを「入」にします。
	手の入れ方が不十分ではありませんか?	●手挿入部の奥まで入れ直します。
手を入れても風が出ない 風が止まらない	センサーに異物・汚れが付いていませんか?	●電源スイッチを「切」にして、表示部のランプが消灯してから、異物や汚れを取り除きます。次に電源を「入」にします。
温風にならない	●この製品にはヒーターは内蔵されていません。	温風が必要なときは販売店にご相談ください。(別売でヒータースタンドを販売しております)
点検ランプが点滅している	電源に異常があると点滅することがあります。	●電源スイッチを一旦「切」にして、表示部のランプが消灯した後(約60秒)に再度「入」にします。

上記点検・処置をされても直らないときは、電源スイッチ・漏電しゃ断器を切って必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。(費用については販売店とご相談ください)

■保証とアフターサービス

- 修理のご相談は、お買上げの販売店またはお近くの「三菱電機 修理窓口」へ
- その他のご相談は、お買上げの販売店またはお近くの「三菱電機 ご相談窓口」へ

■保証書(別添付)について

- 保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
- 内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
- 保証期間はお買上げ日から1年間です。

■補修用性能部品の保有期間

当社はこの三菱ハンドドライヤー「ジェットタオル」の補修用性能部品を製造打切後6年保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

「この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。」
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

この製品は手の乾燥を目的としたもので、手の乾燥以外の用途で使用された場合は保証対象外となります。
また、この製品には、殺菌・消毒機能はありません。

■仕様

形名	電圧	周波数	消費電力 (W)	電流 (A)	質量 (kg)	外形寸法 (幅×奥行き×高さ)
JT-WB220DS	単相200V	50-60Hz	1460	10.6	13	329×245×686 (mm)

- 上記値は風量スイッチ「強」の場合を示す。
- ドレンタンク容量は1.1ℓ

愛情点検 ☆長年ご使用のハンドドライヤーの点検を!

ご使用の際このようなことはありませんか。
- ●風が止まらない
- ●風の出方が不規則
- ●焼けたような臭いがする
- ●漏電しゃ断器が作動する
- ●運転中に異常音や振動音がする
- ●その他の異常・故障がある

▶ **使用中止** 故障や事故防止のため、電源スイッチ・漏電しゃ断器を切って必ず販売店にご連絡ください。点検・修理に要する費用などは販売店にご相談ください。

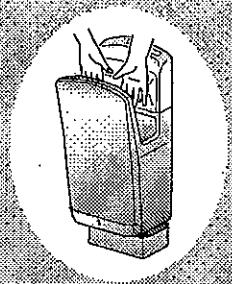
お客さまメモ
サービスを依頼されるとき便利です。

形名	
お買上げ年月日	年　月　日
お買上げ店名(住所)(電話番号)	(　　)

この製品には地球環境保護の一環として再資源化ができるように主なプラスチック部品に材質名を表示しています。
材質名は主材料にISO規定の略号を使用。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。

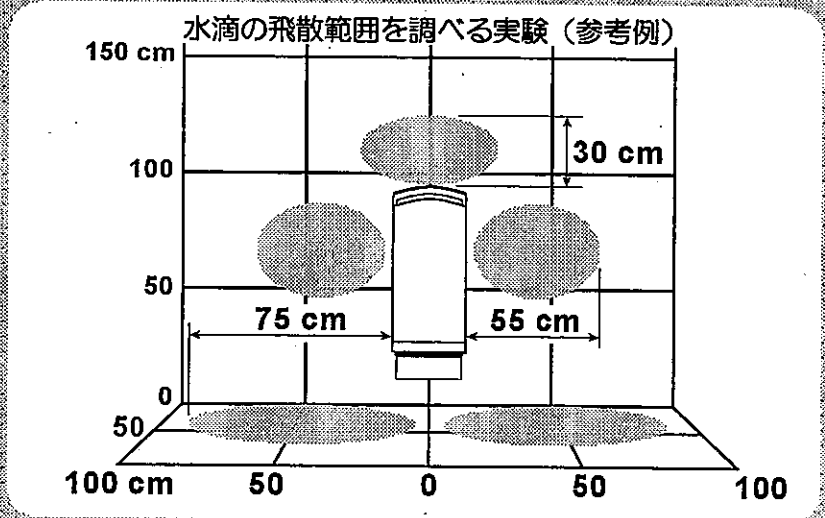
ハンドドライヤーを正しく使用していますか？

近年、手洗い後の手指の乾燥にペーパータオルに代わり、ハンドドライヤー（高速風式手指用乾燥機）を設置する食品営業施設が増えてきました。

ハンドドライヤーは、正しく使用すればとても便利な機械ですが、高速風により手指の水滴を飛ばして乾燥させるため、以下の事項に注意して正しく使用しましょう。

水滴の飛散に注意

手に残った水滴が機械の周辺や自分の衣服に飛散するため注意が必要です。

ポイント1　***機械は食材、食器等の付近には設置しない。***

ポイント2　***特にトイレで使用する場合は、ノロウイルス食中毒予防の観点からも更衣が大切です。***

正しい使い方

手指の水滴をしっかりきり、水滴飛散をできるだけ抑える使い方をマスターしましょう。

両面タイプ（側面が開いている場合）

開放された側面へ

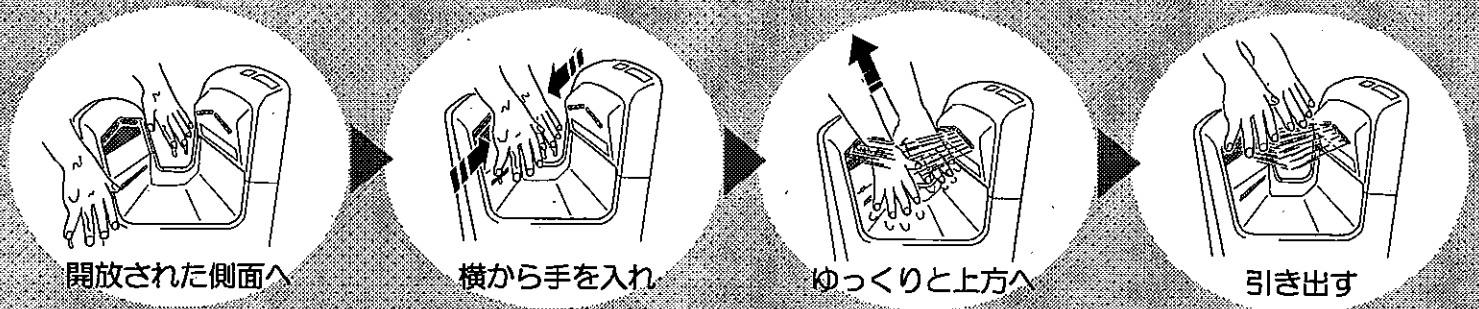
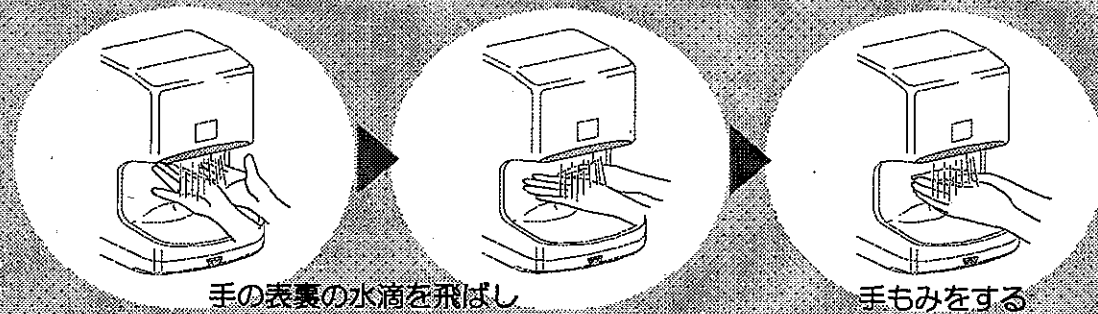
横から手を入れ

ゆっくりと上方へ

引き出す

片面タイプ

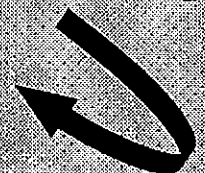
手の表裏の水滴を飛ばし

手もみをする

風量は適切ですか？確認して調整しましょう。

ハンドドライヤーを汚染しないために

ポイント1　***石けんを用いて丁寧に手を洗ってから、ハンドドライヤーを使いましょう。***

ポイント2　***お手入れを定期的にしましょう。***

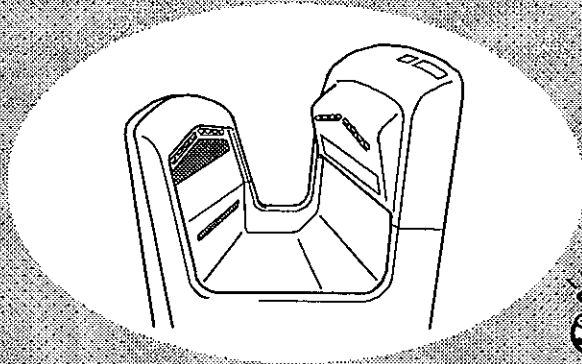
お手入れのポイントは裏面

お手入れのポイント

お手入れの方法はメーカーごとに異なります。
必ず取扱説明書を確認してください。

手挿入部内のお手入れ

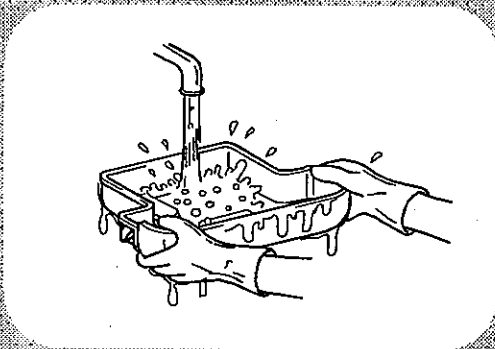
お手入れのタイミング　**1日に1回以上（汚れが目立つ前に）**

かたくしぼった布で拭いてください。※
汚れがひどい場合は中性洗剤を
含ませた布を使用し、その後、
乾いた布でよく拭きとりましょう。

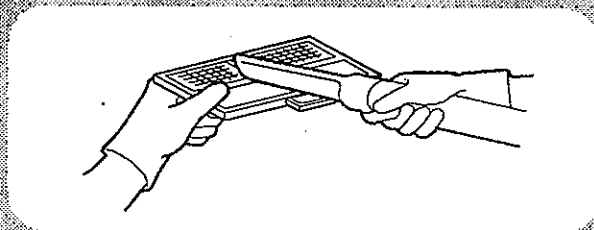
※
消毒用アルコール等が使用可能な機種もあります。
詳しくはメーカーにご確認ください。

⚠ 酸性・アルカリ性・塩素系・柑橘系などの植物系の洗剤やカビ取り洗剤、ナイロンたわし、除光液・シンナー・ベンジンを使用するとプラスチックを傷めますので使用しないでください。

ドレンタンクの排水と清掃

お手入れのタイミング　**1週間に1回以上**

ドレン※をためたままにすると、
汚れや臭いの原因となります。
満水になる前にドレンを捨て、
ドレンタンク内を洗いましょう。
※手から吹き飛ばした水のこと。

エアフィルターの清掃

お手入れのタイミング　**1週間に1回程度**

フィルターは軽く手でたたくか、
掃除機で汚れを吸い取りましょう。
汚れがひどいときは、ぬるま湯か水で
汚れを落とします。水洗いしたときは
よく乾かしてから取り付けましょう。

定期的にハンドドライヤーの保守点検をしましょう

周辺設備(トイレや手洗器等)とあわせて、ハンドドライヤーの清掃や保守点検についてマニュアルを作成し、点検記録も残すようにしましょう。
また、ハンドドライヤーには耐用年数(7年程度)がありますので注意が必要です。

このリーフレットに関するお問い合わせは

東京都多摩府中保健所食品衛生係　電話　042-362-2334

【資料提供】三菱電機株式会社　中津川製作所